



母になるとらいつとそら2

郡司明子
(大学教員)



生後3か月から
6か月のYをめぐる話をします。この間、私は少しづつ

体力も回復し、Yを連れて積極的に外に出られるようになってきました。そして季節は冬へ。何かとイベントの多い時期。家族が増えて、一つ一つの出来事が、よりいとおしく大切な瞬間に思えるようになりました。

さて、Yは背中をぐいんと反らして寝返りの練習を始めたと思つたら、あつという間にごろんごろんと縦横無尽に転がるようになり、

間もなくずりばいを会得しました。昨日までとは違う「今日できている！」ことへの驚きの連続です。

104日目…生活リズム

地域にある子育てひろばの講演会「生活リズムを見直そう」に参加。赤ちゃんの睡眠の基礎知識から生活リズムを整える必要性まで、わが家にとつては旬の内容。毎日の生活スケジュール（起床時間、授乳時間、お昼寝の時間など）がスムーズに行われていると、一日の情緒も安定するという。そのためには、

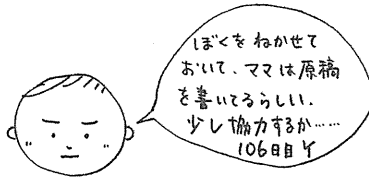
郡司明子（くにしあきこ）
群馬大学准教授。専門・美術科教育。小学校教諭を経て現職。身体性を重視したアート教育を実践研究中。

午前中の遊びを充実させ、夜七時から朝七時の睡眠を習慣づけることが推奨されていた。一方、わが家はこの日まで行き当たりばったり。帰宅の遅い夫にYを風呂に入れてもらい、ようやく寝付くのは夜十一時ごろ。朝昼晩の区別もつかない頻回授乳でこちらもへとへと。

そこで、この日を境に、意を決して私が夕方にはYを風呂に入れ、七時就寝を心がけることに。七時でいったん育児業務終了とは！何と気が楽になったことが。

127日目：持てなY

最近Yが持てるようになった物、木製のリング。つい先日までのおぼつかない手の動きを経て、確実に「持てた！」時の表情といっ



たら、世界との交信がかなった瞬間に生きる喜びを得たような満足顔。

最近Yが持てるようになったこと、絵本の時間。四か月健診のブックスタートをきっかけに、地域の図書館に通い、赤ちゃん向けの絵本を借りてくる。ひざの上に抱いて読み聞かせをすると、じっと絵本に見入るY。

134日目：リース作り

街は冬の装い。赤と緑のコントラストに、華やかなイルミネーション。近所の花屋さんではリース作りの素材が並んでいた。思わず手に取り、わくわく感が高まる。シナモン、ドライオレング、松ぼっくり、姫リンゴに、かぐわしいクレスト。早速、家で温存し



ていた蔓と一緒^{ついで}に季節のリースを作り始める。
Yの寝ている間に少しずつ手を動かす。

138日目：映画鑑賞

近所の友人と、赤ちゃん連れで映画を観に行った。『うまれる ずっと、いっしょ』。生まれる命、旅立つ命……。生きることに向き合う家族を描いたドキュメンタリー映画。映画館では「ママさんタイム」なるものがあった。「赤ちゃんの泣き声は映画のBGM!」という何とも温かな企画。館内の至る所で赤ちゃんとありのままにいられる心地いい空間。泣けてしまう内容に、涙がほおを伝って授乳中のYの顔にもほとん。見終わったら体内が浄化されたよう。

149日目：おんぶと抱っこ

腹はいに余裕がでてきたY。自力で頭を持ち上げて周囲を悠々と見渡している。ねんね

の状態から体を起こすと世界が反転して見える、その面白さや喜びに全身でひたっている。私の専門とするアート教育は、こうした物事の見方、その意外性や面白さに触れる機会にあふれているのだなあと、改めて赤ちゃんの存在と図工・美術のありようを重ねて考える。

152日目：おんぶと抱っこ

友人におんぶひもを借りることになった。画期的！ Yをおんぶしたまま、シンクの物入れの整理が完了。それまで、抱っこやスリングで手が空くことのなかった私。鷺田清一は、おんぶと抱っこでの母子の視線の違いに触れ、おんぶは母子の関係を内に閉ざすことなく、まなざしが外へと開かれていくことに言及する[※]。より社



おんぶは
うれしいよ。
あったかくて、すぐ
ねちゃうんだ。
152日目 Y

会的な協同の感覚に導くというおんぶ。そういえば、Yをおんぶしている時のほうが、見知らぬ人が声を掛けてくれるような……。

175日目：風邪ひき母さん

育児の傍ら、長年の仕事をまとめることにチャレンジしていた。その矢先、ラストスパイト目前で、とうとう私がダウン。背中からゾクゾクと寒気がする。熱を測ると三十八度二分。健康が取りえの私がまさかの発熱。ここから一週間以上せきが止まらない日々。家のことはすべて母にお願いするも、漢方薬の助けを借りながら、嚴重にマスクをして夜中の授乳を続ける。ああ、母親ってしんどい。せめてもの救いは、Yが至って元気だったこと。

ねがえり記念日!
とみんながでわいびる
自かひころんて
ひきたもんね
170日目 Y



183日目：5レンジャー

わが家は十五軒が集まるコーポラティブハウス。その中で、赤ちゃんのいる家が五軒。しかも、そろって男子。名付けて「5レンジャー」。それで、集会室を利用して5レンジャーの会を

たびたび開く。おいしいサンドイッチを取り寄せ、お茶を持ち寄り、子育ての疑問、不安、喜び、あれやこれやを好きなだけ話す。近くに同じ境遇の仲間がいることにずいぶんと支えられている。

— 続く —

110110にだこ
してもらって図書館の
コンサートに行きたよ
おはなしも楽しかったね
172日目 Y



注 鷺田清一著『自由』のすきま』角川学芸出版

二〇一四年 pp.20-22